

教育研究所だより

No.233 令和5年3月20日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育支援センター 愛称:エルセンター 3・4階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu_index.html

令和4年度 教育研究発表大会(令和5年2月15日 開催) ご参加いただきありがとうございました

これまで、新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止や規模を縮小しての開催でしたが、今回3年ぶりに守山市民ホールで開催させていただくことができました。

大会当日は、朝から雪が舞う寒い日となりましたが、ご来賓の皆様をはじめ、先生方や保護者・地域の皆様など166人の方にご参加いただき本当にありがとうございました。



大会では、まず、全国学力・学習状況調査の考察について、学校教育課の西村指導主事より報告を行いました。「理解したつもり」「教えたつもり」ではなく「定着をめざす」ことの大切さなどを提言させていただきました。

また、「学校に行くのは楽しいですか」という設問に対して、守山市は全国平均に比べやや低いという結果とともに、「子どもたち一人ひとりの心の居場所として、支持的風土のある集団であることが学力の土台となる」との指摘をさせていただきました。

学び合える環境を整えることは、教師の大きな役割であり、市内教職員全体で取り組むべき視点です。

教育研究発表では、当研究所の中道係長から「子どもが主体的に学ぶ授業の創造をめざして」として、子どもの心が動かされる教材との出会いを中心に発表させていただきました。また、折木研究員からは「問題解決・探究における情報を活用する力の育成を意識した中学校社会科の授業のあり方」と題し、中学校社会科を切り口に、ICTを活用した授業づくりの実践を中心に発表させていただきました。これらの発表を通して、少しでも先生方のお役に立てればと考えております。

なお、今年度の研究成果物として、「授業づくりハンドブック」と「小学校学級会リーフレット」を発行する予定をしております。ご活用いただければ幸いです。

教育講演会では、「自尊感情をどう育てるのか」と題し、日本ウェルネススポーツ大学教授 近藤 卓先生にご講演をいただきました。「大地に根を張り 心豊かにたくましく生き抜く人づくり」は守山市教育の基本理念です。大地に根を張るたくましい人づくりのため、自尊感情は根を支える根幹にあたります。「子どもの自尊感情を育むことの大切さ」は、わかっている、具体的にどのように育んだらいいのか。このような課題に対して、少しでも方向性を見い出せるよう、今回の講演をお願いいたしました。これからの教育実践や子育てに、少しでも活かしていただければと思っています。



一堂に会して開催させていただいた今回の研究発表大会では、人と人とのつながりの大切さをあらためて感じさせていただきました。

これからも、みなさまのお役に立てる教育研究所をめざして活動を進めていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<大会参加者の感想より>

○全国学力・学習状況調査の考察

- ・子どもたちの抱える課題をわかりやすくお示しいただいて、学びの多い時間となりました。各課題の改善に向けて、授業だけでなく学校生活や行事など、様々な場からアプローチしていく必要とその分類を考えていく必要性を感じました。(教職員)
- ・データを元に簡潔にまとめてくださってよくわかった。学力を図るものでないこともわかるよう話して下さった。(保護者)

○教育講演会

- ・自尊感情に社会的自尊感情、基本的自尊感情という考え方を、大変わかりやすく説明いただいた。共有体験で人は育つ、一緒に体験することで育つという考え方は、大変わかりやすく共感しました。ほめる、認めるだけではなく一緒に共有することで、自尊感情が育っていく、多くの人の心に響く講演だったと思います。ありがとうございました。(教職員)
- ・「一緒に泣いたり、笑ったりして共に同じ時間を過ごす」教育の一番大切なことでもあると思います。元気が出ました。「ありがとうございます」(教職員)
- ・「自尊感情を育てる」という難しいタイトルでしたが、今からでも遅くないこと、簡単なことから始められることがわかりうれしくなりました。今日からやってみたいと思いました(保護者)
- ・とてもよい時間を過ごせました。今日、この場に参加できてラッキーと思えるくらいの有意義な時間でした。(保護者)

『つなごう絆 届けよう私たちの思い』

守山市中学生生徒会サミット トルコ地震救済に係る募金活動実施

2月6日(月)トルコ共和国で大地震が発生しました。守山市は、東京オリンピック・パラリンピックでトルコ共和国のホストタウンに登録されたのを機に、トルコ共和国の歴史・文化・芸術を学んだり交流を深めたりしてきました。そんな守山市と深い関わりのあるトルコ共和国とその隣国のシリアが、今回大きな災害に見舞われました。

守山市中学校生徒会は、何かできることはないかと考え、市内共通のスローガン「つなごう絆 届けよう私たちの思い」を掲げ、少しでもトルコの支援につながるよう、市内6中学校が協力して、すべての学校で募金活動に取り組みました。

守山駅西口で行った募金活動では、たまたま守山へ練習試合に来ていた京都の高校生をはじめ駅を利用する多くの人や、タクシーの運転手さんが募金に協力してくださりました。他人を思いやる優しい心、温かい心を感じました。

また、募金活動の様子がマスコミで報道されると、「素晴らしい活動をしている中学生をぜひ応援したい」と、近江八幡市在住の方から、守山南中に募金が届けられました。

守山市中学校生徒会サミットは、生徒の自治能力や主権者として積極的に社会参画する力を伸ばしていくことを目的の一つとして活動していますが、中学生の活動がこうして社会を動かす力となり得ることもあらためて実感しました。

なお、この募金活動は市内小学校でも取り組まれており、市内すべての15校の小中学校で集められた募金 939,952 円は、トルコ大使館に届けさせていただきます。

温かい募金を本当にありがとうございました。



1月の研修・講座について

第4回守山市初任者研修



令和5年1月24日(火)、第4回守山市初任者研修を実施しました。

午前は、物部小学校 木村 野乃香 教諭による「特別の教科 道徳科」の授業動画を視聴し、授業研究会を行いました。

「本時の目標に迫る授業実践であったか」という視点で、成果と課題、改善策をグループで話し合いました。また、指導講師として、学校教育課 西村 幸太 指導主事から道徳科の授業づくりのポイント等についての指導助言をいただき、教科指導のあり方についての知見を深めることができました。



午後は、「先輩から学ぶ学級経営」として、守山南中学校 関口 真 教諭と、吉身小学校 谷口 翔 教諭のお二人から、学級経営の在り方についてのご講義をいただきました。



関口先生からは、「居心地のよい学級をつくるための10のポイント」等について、また、谷口先生からは、「学級目標や学級活動を生かした学級づくり」等について、熱心にお話いただき、今後の学級づくりに対する意欲を燃やす機会となりました。

研修の最後は、学校教育課 吉田 尚子 指導主事 進行のもと「座談会」を行いました。一年間を振り返り、「思い出に残っていること」「最大のピンチは?どう切り抜けたか?」等、様々なテーマについて語り合い、初任者同士の親睦を深めることができました。



【初任者の感想(一部抜粋)】



- ・いろいろな先生の教育観や思いを知り、授業づくりや学級経営にワクワクしました。まずは、自分から主体的に取り組み、いろいろな失敗を繰り返す中で、自分のやり方や指導法、授業法を身につけていきたいと思います。
- ・研修の時間は、僕にとっては、リフレッシュできたり、不安な気持ちを切り換えたり、学級経営や授業の進め方を考えたりするなど、心のエネルギーと技術面の学びにつながりました。同期との交流の場もあり、本当によい研修の場でした。
- ・市の初任者研修として最後の研修でしたが、とても充実しており、時間が過ぎるのが一瞬であったように感じました。道徳の研究授業をはじめとして、「先輩教員から学ぶ学級経営」においてはとても学びの多い時間となり、教員の心に火をつけていただきました。
- ・学級経営についても、教科指導についても、道徳と学活についてもいろんなことを学ぶことができ「明日からまた頑張っていこう!!」と、もう一度思うことができた一日となりました。市の研修はこれで終わりとなりますが、横のつながりを大切にしながら、一生懸命に、また、たまの息抜きを忘れずにがんばっていきたくと思います。
- ・研修全体を振り返って、子どもたちが「このクラスでよかった!」と最後に思ってくれるような学級をつくれたらいいなと思いました。子どもと過ごす一日一日は大変ですが、子どもからもらえるパワーや元気を自分の活力にして、今後の教師人生を前向きに進んでいけたらいいなと考えます。



少しホッとする『心の居場所』



みなさんの『居場所』はどこにありますか？

こんにちは。スクールカウンセラーの村上です。私は守山市でスクールカウンセラーとして5年間勤めさせていただきました。その中で、「居場所がない」と話してくれる子どもたちに多く出会いました。そして、子どもたちの『居場所』をつくるためにはどうしたらいいのかということを考えてきました。スクールカウンセラーは、時にはじっくりと寄り添い、時には心理学に基づいたアドバイスをさせていただきます。対処法のスキルを増やしていくことも、もちろん大切なのですが、それらを通して行っているのは『心の居場所』を作ることなのだと思います。

みなさんは、辛いとき、不安なときに思い浮かべる人はいますか？家族や友達、あるいは“推し”を思い浮かべる人もいるかもしれません。その思い浮かべた人(“推し”)は、辛いとき、不安なときにどんな言葉をかけてくれるでしょうか？それらを想像すると少しホッとする感じがするのではないのでしょうか。この“少しホッとする存在”が『心の居場所』となるのではないかと考えます。

では、子どもたちの『心の居場所』となるためには、どうしたらいいのか…。話をじっくりと聴く、一緒に遊ぶ、子どもが面白いと思うものに関心をよせる…など、様々な方法がありますが、一番大切なのは、「ただいま」「おかえり」を言える関係をつくることだと思います。スクールカウンセラーのところへお話しをしにきてくれた子どもたちのなかには、来室時には「ただいま!」、退室時には「行ってきます!」と言ってくれる子どもたちがいます。そんな子どもたちを見ていると、「ただいま」と「行ってきます」が言える関係があること自体が、安心感につながるのだと感じます。そして、学校という社会で頑張ってきた後の「ただいま」に対して、労いをこめて「おかえり」と言えるか、気合いをいれて学校へ出向くときの「行ってきます」に対して、エールをこめて「行ってらっしゃい」と言えるかが、『心の居場所』となる鍵になるのではないかと思います。忙しい日々の中、当たり前のように交わすあいさつだからこそ、サラッと流れてしまったり、そっけないものになってしまったりしがちです。そして、それは子どもたちに必ず伝わってしまいます。子どもたちは大人が思っているよりも大人のことをよく見ています。だからこそ、日々の「おかえり」「行ってらっしゃい」に少しだけ心をこめることが子どもたちの安心感につながり、それが『心の居場所』となるのではないかと考えます。

実は私自身、市役所から各学校へ出向くときには「行ってきます」「行ってらっしゃい」、学校から市役所へ戻ってきたときには「おかえり」「ただいま」と言えることに、安心感やパワーをもらっており、『心の居場所』となっていると感じます。子どもたちにとっても、そんな『心の居場所』となる存在ができるよう、そしてその存在の一人が、スクールカウンセラーとなるよう日々努力していきたいと思えます。

今年度のおわりにあたりまして

今年度、教育研究所では、学校現場および教職員から信頼され頼りにされる教育研究所であり、保護者や児童・生徒のよりどころとなる教育研究所であるよう、運営に努めてまいりました。どれだけご期待に応えられたかは、誠に心もとないばかりです。

さて、今学校では知識技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決する力の育成などが求められるとともに、ICTの活用や増え続ける不登校などの対応など、様々な課題への対応が求められる、学校や教職員の役割は拡大し多様化してきています。

私たち教育研究所は、教職員や保護者の願いに真摯に耳を傾け、これからも、お役に立てる教育研究所であり続けるよう、取組を進めていきたいと考えております。

最後になりましたが、今年度の研究所事業推進に際して、ご指導ご協力を賜りました多くの皆様に、所員一同心より感謝を申し上げます。

今後とも教育研究所の諸活動に、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。